

# 京都女子大学 教職支援センター研究紀要

2023年3月 第5号

## ■論文

日本とシンガポールの算数・数学教育カリキュラムの比較研究 —シンガポールの改訂Mathematics Syllabusをもとに—	坂井 武司・赤井 秀行・石坂 広樹	1
養護教諭に求められるICT活用指導力	大川 尚子・岩崎 保之・後尾 結女・石井有美子	13
教員養成課程の音楽関連科目における携帯端末活用の可能性 —学生への意識調査アンケートをふまえて— 丹羽ひとみ・長谷川梨紗・野尻麻衣子・宮内 晴加・大谷 正和・土居 知子		21
生徒指導の視点から捉えた不登校特例校と夜間学級の生徒の相互交流の教育的価値 —全国唯一の京都市立洛友中学校の取り組みをもとに—	高垣 明夫	33
幼稚園教育実習における評価の研究（2） —評価項目を構成する因子の検討— 古池 若葉・糸井 嘉・神原 雅之・上月 智晴・黒田 義道・ 黒原 眞仁・松崎 行代・田月歩乃香・市川 千尋		45
教員養成課程における「感覚をつなぐ表現活動」の試みⅡ —「保育内容演習（表現）」での音楽と造形を統合させた実践から—	岡林 典子・矢野 真	57
深い学びを支える指導観についての考察 —東井義雄の指導観に着目して—	玉城 明子・森 久佳	67

## ■研究ノート

教育実習の時期と期間についての検討 —2020年度入学生への調査結果を基に—	村井 尚子・宮崎・元裕・森 久佳	79
保育者養成課程における「歌あそび」教材の可能性	松原 綾菜・ガハプカ奈美	91
教職課程で育みたい教員としての資質・能力 —各都道府県の求める教師像をもとに—	高垣 明夫	103
生徒指導と子どもの権利擁護 —生徒指導提要の改訂と子どもの最善の利益—	浦田 雅夫	115
イヌバラ法による教員を対象とする傾聴技術の訓練に関する一研究	阿部 彩	123
器楽基礎（クラシックギター）の短期習得における達成感の重要性と効果、および実践的研究	橋爪 皓佐	135
保育施設におけるコロナ感染対策と音楽表現活動	神原 雅之・岡林 典子	145
ファーストステップとしての模擬保育の考察 —保育内容総論における「手遊び模擬保育」の分析を通して— 上月 智晴		155

## ■実践報告

幼児教育の成果を踏まえた小学校国語科における低学年の学習指導の改善に関する検討	村地 和代・水戸部修治	167
オンデマンド教材を活用した声楽指導について 黒田 恵美・大橋ジュン・篠部 信宏・八木 寿子・ガハプカ奈美		179
初等教育における多言語教育の可能性：音楽・プログラミング・ドイツ語の融合 ガハプカ奈美・丸野 由希・藤原 美沙		191

## ■その他

「子ども理解と教育相談」及び「子育て支援」に関する一考察	瀬々倉玉奈	203
音楽指導における一考察 —イメージと音楽の関連性（1）—	三村 哲子	213
教職支援センター活動報告① —教職への道を確かなものに—	椋本 久雄	219
教職支援センター活動報告② —面接指導（小学校）、学生対応を中心として—	天野 聖子	223
教職支援センター活動報告③ —幼稚園教諭等採用試験対策実践・幼児教職課程指導実践から—	落合 幸子	229
2022年度 教職支援センター年次活動報告		235
投稿規程		238

# 2022年度 教職支援センター年次活動報告

## 1. 教職支援センターの概要

本学では、「教員になる」という強い意志をもつ学生を育成し、質の高い教員をより多く社会に輩出するため、2011年度より教務部教務課（現：教育・学生支援部教務課）のもとに「教職支援センター」を開設し、教職に関する相談体制、指導体制を整備・強化し、教員採用の実績向上を目指してきた。

性格的には教務課の機能の内、教職支援に特化したセンターとして位置づけられるが、2018年度からは既存の教員採用試験対策支援に加え、本学の教職課程充実のための各種施策における中心的な役割を果たし、また地域における学校現場の問題解決に寄与することを目的として組織強化を行っており、教職支援センター長（本学教員・常駐しない）を置くとともに、特定教授（本学教員）を常駐させて学生指導も行っている。

### (1) 業務内容

教職支援センターでは、将来、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校において教職を目指す学生に対して、教職に関する相談業務、進路にかかる指導業務、各種支援講座等の企画・開催に特化した次の業務を所掌する。

- ①教職課程における指導（教育実習指導、介護等体験指導、教職実践演習を含む）
- ②地域貢献（免許状更新講習、現職教員の研修、教員育成協議会、学校ボランティア等）
- ③教職課程の自己点検・評価（FD/SD、業務・研究成果の公表等）
- ④教員採用試験対策指導（筆記試験・面接試験対策の各種講座の実施等）
- ⑤教員採用に関する情報並びに資料の収集と提供
- ⑥教員採用求人及び教員採用状況の紹介（情報は進路・就職課より提供）

### (2) 運営体制

- ①教職支援センターには特定教授（専任）3名、事務職員等を配置し、各学科・専攻の教職担当教員や教職カウンセラーとの連携の中で学生に対する教職支援を行う。
- ②特定教授は、実務家教員として学校現場や教育委員会等の経験を活かして、教職課程科目の担当のほか、教育実習・介護等体験の事前・事後指導や学生の進路相談に関する助言・指導等を行い、全学的な教職課程の指導的役割を担う。
- ③教職カウンセラーは、教職関連進路、教員採用試験対策講座等に関する企画を行う他、教員採用全般にかかる学生からの相談に対して助言・指導を行う。
- ④教職支援センターは、各学科・専攻の教職担当教員と連携する。また、求人情報や採用情報等の集約業務を担当する進路・就職課と有機的に連携を図りながら運営する。

## 2. 2022年度の活動概要

〈4月中旬～7月〉

- ・特定教授・教職カウンセラーによる教員採用試験受験者への個別指導の実施
- ・小論文に特化した有料講座の実施

〈8月～9月〉

- ・特定教授・教職カウンセラーによる教員採用試験受験者への個別指導の実施

〈10月～翌1月〉

- ・特定教授・教職カウンセラーによる教職応援セミナー（3回生対象）の実施

〈11月～翌3月〉

- ・筆記試験対策・小論文に特化した有料講座の実施

〈12月～翌3月〉

- ・「教員採用試験合格者メッセージ」のオンデマンド配信開始

その他、年間を通じて、学生の個別相談・指導、学生ボランティアの紹介、各自治体教育委員会担当者を招いての教員採用試験説明会、私立学校教員採用試験セミナーを開催。

2022年度開催分 公立学校教員採用試験説明会及び「教師塾」説明会開催状況

教育委員会名	4回生対象（前期）		3回生対象（後期）		「教師塾」説明会	
	開催日	参加人数	開催日	参加人数	開催日	参加人数
京都府教育委員会	4月26日	18	11月24日	23		
京都市教育委員会	4月25日	19	11月18日	30	6月13日	24
大阪府教育委員会	4月7日	13	1月16日	11		
大阪府教育委員会	4月14日	12	12月19日	10		
大阪府豊能地区教育委員会	4月18日	1	11月25日	1		
堺市教育委員会	4月12日	18	12月16日	0		
滋賀県教育委員会			12月20日	9	7月11日	5
横浜市教育委員会	5月12日	2	12月12日	5		
川崎市教育委員会	4月20日	0	12月9日	1		
相模原市教育委員会	5月17日	1	12月22日	0		
千葉県・千葉市教育委員会	4月28日	0 <sup>*1</sup>				
浜松市教育委員会			12月13日	4		
石川県教育委員会	5月11日	2	12月1日	6		
岡山市教育委員会	4月27日	7	11月14日	2		
合計		93		102		29

年度別教員採用状況（専任・非常勤別）

	卒業生数	免許 取得者数 (A)	教員採用率 (B+C) ÷ A	教員採用者数								* ( ) 内は非常勤の人数で外数。	公立学校教員採用試験合格者動向 (京都府、京都市、滋賀県、奈良県、大 阪府、大阪市、兵庫県の合格者数と5名 以上の合格者がいる自治体を記載)
				幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支 援学校	養護教諭	栄養教諭	合計 専任+(非常勤) B+C		
2009年度	1,344	524	34%	35(7)	60(33)	3(17)	3(12)	2(2)	5(1)	108(72)	60%	京都府2名、京都市10名、滋賀県8名、 奈良県9名、大阪市7名、堺市3名、 兵庫県0名、横浜市5名	
2010年度	1,360	480	41%	43(8)	57(47)	8(13)	1(9)	1(6)	2(1)	112(84)	57%	京都府3名、京都市8名、滋賀県8名、 奈良県7名、大阪市3名、堺市2名、 兵庫県0名、東京都5名、川崎市5名	
2011年度	1,354	533	37%	37(8)	61(34)	11(12)	0(12)	2(2)	3(0)	119(76)	61%	京都府7名、京都市14名、滋賀県7名、 奈良県8名、大阪市5名、堺市3名、 兵庫県1名	
2012年度	1,332	506	39%	37(6)	66(35)	8(12)	2(8)	1(1)	2(1)	120(77)	61%	京都府7名、京都市18名、滋賀県2名、 奈良県12名、大阪市3名、堺市1名、 兵庫県5名、広島県・広島市5名	
2013年度	1,327	497	41%	39(8)	57(39)	6(11)	1(9)	2(2)	3(3)	114(92)	55%	京都府6名、京都市8名、滋賀県12名、 奈良県5名、大阪市2名、堺市3名、 兵庫県10名	
2014年度	1,493	483	40%	46(6)	74(37)	13(14)	0(1)	0(1)	3(0)	141(72)	66%	京都府6名、京都市8名、滋賀県12名、 奈良県5名、大阪府18名、堺市2名、 神戸市12名	
2015年度	1,518	465	46%	41(5)	55(40)	14(27)	1(2)	1(2)	2(3)	126(91)	58%	京都府4名、京都市4名、滋賀県7名、 奈良県5名、豊能地区26名、堺市4名、 神戸市8名	
2016年度	1,507	459	44%	41(4)	65(35)	14(13)	1(2)	1(2)	3(0)	135(69)	66%	京都府4名、京都市5名、大阪府20名、 滋賀県7名、豊能地区2名、堺市5名	
2017年度	1,422	395	42%	29(7)	56(24)	12(12)	0(0)	0(0)	1(0)	105(61)	60%	京都府6名、京都市7名、大阪府20名、 滋賀県6名、大阪市3名、豊能地区2名	
2018年度	1,515	438	51%	41(5)	82(2)	40(13)	0(0)	0(0)	3(0)	201(24)	80%	京都府6名、京都市12名、大阪府18名、 滋賀県6名、大阪市4名、豊能地区2名	
2019年度	1,373	378	46%	46	61(1)	22(3)	0	0	4(14)	155(20)	80%	京都府3人、京都市12人、大阪府6人、 滋賀県9人、大阪市4人、堺市1人、 兵庫県1人、奈良県4人、和歌山県2人	
2020年度	1,357	363	43%	45(2)	38(17)	12(14)	0(0)	0(0)	3(2)	107(52)	60%	京都府8人、京都市9人、大阪府5人、 滋賀県6人、大阪市4人、兵庫県1人、 奈良県3人	
2021年度	1,324	343	49%	44(3)	44(22)	11(18)	0(0)	0(0)	0(0)	109(59)	64%	京都府3人、京都市6人、大阪府6人、 大阪市1人、滋賀県6人、奈良県4人、 兵庫県2人	

\* 2021年度については集計中のため除外

## 「教職支援センター研究紀要」投稿規程

（2018年9月18日 制定）

最近改正 2021年10月26日

### 1. 目的

京都女子大学教職支援センター（以下、「教職支援センター」という。）は、教職課程に関する研究成果の公表を目的として「教職支援センター研究紀要」（以下、「本紀要」という。）を発行する。

### 2. 刊行頻度

本紀要は、原則として年1回刊行する。

### 3. 編集委員会

本紀要の編集委員会は、教職支援センター運営委員より選出した委員をもってこれを構成し、編集委員長は教職支援センター長がこれを兼ねる。

2 編集委員は、教職支援センター長が指名する。

3 本紀要の発行に必要な事項については、申し合わせ事項として編集委員会で定める。

### 4. 投稿資格

本紀要の投稿者は、単著の場合は本学の専任教員または非常勤教員でなければならない。共著論文の場合は、本学の専任教員が共著者に含まれていること。なお、編集委員会が認めた場合（依頼原稿を含む。）は、この限りではない。

### 5. 投稿原稿

本紀要が受領する原稿の種類は以下の通りとし、書式は（4）を除き著者が属する研究分野における標準的な方式に従うものとする。なお、投稿者は以下のどの区分での掲載を希望するかを、投稿申請時に明記すること。

- (1) 論文：教職課程及び学校教育に関する独創性・新規性のある理論的あるいは実証的研究
- (2) 研究ノート：教職課程及び学校教育に関する萌芽的あるいは暫定的な考察（有用性のある情報や研究データの提供を含む。）
- (3) 実践報告：教職課程及び学校教育における授業実践や教材・教具の開発等に関する報告
- (4) その他：教職支援センター及び各学部等の活動報告、教職課程に関する研究会・研修会・講演会等の報告、学生活動記録等

### 6. 審査

(1)論文及び(2)研究ノート、(3)実践報告の投稿者は、原稿提出に先立ち、同一もしくは関連領域を専門とする研究者の内容確認を経ることとする。

編集委員会は、受領原稿を審査のうえ、紀要掲載の採否及び掲載区分を決定する。

### 7. 不正行為の禁止

編集委員会からの依頼原稿を除き、他誌に掲載された原稿や投稿中のものは受領しない。また剽窃・盗用の疑いがある場合は、文部科学省が定めた「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」等を参考の上、編集委員会で対処する。

### 8. 校正

著者による校正は再校までとする。

### 9. 著作権

掲載された論文等の内容についての責任は著者が負うものとする。また、その著作権は著者に属し、編集出版権は教職支援センターに属する。

**10. 情報公開**

本紀要に掲載する論文等は、原則として「京都女子大学学術情報リポジトリ」で公開する。

**11. 規程の取扱い**

本規程の取扱いは、教職支援センター運営委員会が行う。

**附則**

この規程は、2018年9月18日から施行する。

**附則**

この規程は、2020年7月27日から施行する。

**附則**

この規程は、2021年10月26日から施行する。

以 上

## 編集後記

第5号となった教職支援センター研究紀要には、論文7本、実践報告3本、研究ノート8本、その他2本の投稿がありました。今年度は教職課程認定をひかえていたため多くの投稿があり、特に、非常勤講師の先生からも積極的にご執筆いただきました。また、学部・学科の枠を越えた共同研究や、大学教員と現職教員との共同研究の成果もあり、結果として、教職に関わる多様な分野からの研究・実践が掲載できたことを喜ばしく思います。今後の教職課程の授業に活かされ、よりよい教員養成に資することを願っています。

今、日本の教育は大きな転換期を迎えています。教育のDX化に向け、一人一台のタブレット端末の活用に関する課題が山積しており、新しい時代を担う教員に求められるICT活用指導力の育成は、教職課程に不可欠なポリシーとなっています。そこで、教育におけるICT活用に関する研究成果を、積極的にご投稿いただけますよう、お願い申し上げます。

ご寄稿くださった先生方、さらに、編集の労をおとりくださった編集委員の先生方、ありがとうございます。最後になりましたが、編集の仕事を一手に引き受けてくださった教職支援センター事務員の園城麻央さんに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

教職支援センター研究紀要編集委員長 坂井武司

編集委員長 坂井 武司 (教育学科教育学専攻)

編集委員 村井 尚子 (教育学科教育学専攻)

古池 若葉 (児童学科)

森 久佳 (教育学科教育学専攻)

福島知津子 (英文学科)

## 教職支援センタースタッフ

椋本 久雄 教職支援センター特定教授

天野 聖子 教職支援センター特定教授

落合 幸子 教職支援センター特定教授

園城 麻央 教職支援センター事務員

野久保実紗 教職支援センター事務員

京都女子大学 教職支援センター研究紀要 第5号

発行日 2023年3月3日

編集・発行 京都女子大学教職支援センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35番地

TEL: 075-531-7275 FAX: 075-531-9145

印刷 株式会社 昭英社



# THE KWU JOURNAL OF TEACHER EDUCATION

March 2023 Volume 5

## ■ Articles

A Comparative Study of Mathematics Curriculum in Japan and Singapore: Based on the Revised Mathematics Syllabus of Singapore	SAKAI Takeshi / AKAI Hideyuki / ISHIZAKA Hiroki	1
ICT utilization teaching ability required for Yogo teacher	OKAWA Naoko / IWASAKI Yasuyuki / GONOO Yume / ISHII Yumiko	13
Thoughts on possibility of applying mobile devices to music related courses in teacher training programmes: Based on questionnaires to students	NIWA Hitomi / HASEGAWA Risa / NOJIRI Maiko / MIYAUCHI Haruka / OTANI Masakazu / DOI Tomoko	21
The Educational Value of Interaction among Students in Special School for School Refusal and Evening Classes from the Perspective of Student Guidance: Based on the Efforts of Kyoto Municipal Rakuyu Junior High School which is the only School of its kind in Japan	TAKAGAKI Akio	33
A study on evaluation of pre-service teaching practices at kindergartens: Focusing on a statistical analysis of student teachers' grades for five years (2)	KOIKE Wakaba / ITOI Yoshimi / KAMBARA Masayuki / KOZUKI Tomoharu / KURODA Yoshimichi / KUROHARA Takahito / MATSUZAKI Yukiyo / TATSUKI Honoka / ICHIKAWA Chihiro	45
A Trial of "Expressive Activities Connecting the Senses" in a Teacher Training Course II: From the practice of integrating music and plastic arts in the "Childcare Content Exercise (Expression)"	OKABAYASHI Noriko / YANO Makoto	57
A study on the ideas of teaching underpinning authentic learning: Focusing on Yoshio Toi's ideas for teaching	TAMAKI Akiko / MORI Hisayoshi	67

## ■ Research Note

What is the appropriate timing and the period for teaching practice?: Based on a survey for the freshmen in 2020	MURAI Naoko / MIYAZAKI Motohiro / MORI Hisayoshi	79
The Possibilities of Teaching Materials for Songs while Playing in Childcare Teacher Training Courses	MATSUBARA Ayana / GAHABKA Nami	91
Qualities and Abilities as a Teacher to be Nurtured in the Teacher Training Courses: Based on the Image of Teachers Required by Each Prefecture	TAKAGAKI Akio	103
Student Guidance and Advocacy for children	URATA Masao	115
A Study on the Training of Listening Techniques of Counseling for Teachers through the Dog and Rose Role-playing Technique	ABE Aya	123
The Importance of Feeling a Sense of Accomplishment in Learning the Fundamentals of Instrumental Music Performance: A Case Study of Classical Guitar Teaching in a Short Period of Time	HASHIZUME Kosuke	135
The Actual Conditions of Musical Expression Activities in Childcare Settings under the Situation of the COVID-19 Pandemic	KAMBARA Masayuki / OKABAYASHI Noriko	145
Consideration of Simulated Childcare Practice as the First Step — Through Analysis of Simulated Childcare Practice for HandPlay in Childcare Contents Theory —	KOZUKI Tomoharu	155

## ■ Practical Report

A Study on Improvement of Learning Guidance for the Lower Graders in Elementary Schools aiming at Japanese Language Departments: Based on the Results of Early Childhood Education	MURACHI Kazuyo / MITOBE Shuji	167
Vocal music instruction using on-demand teaching materials	KURODA Emi / OHASHI Jun / SHINOBE Nobuhiro / YAGI Hisako / GAHABKA Nami	179
Possibilities of Multilingual Education in Primary Education: Fusion of Music, Computer Programming and German Language	GAHABKA Nami / MARUNO Yuki / FUJIWARA Misa	191

## ■ Others

A Study on Theory and Method for Understanding and Support of Young Children and Their Parents	SESEKURA Tamana	203
A Study on Music Education: Relevance Rebetween Image and Music (1)	MIMURA Satoko	213
Activity Report of Education Career Support Center Vol. 1, No. 1	MUKUMOTO Hisao	219
Activity Report of Education Career Support Center Vol. 1, No. 2	AMANO Kiyoko	223
Activity Report of Education Career Support Center Vol. 1, No. 3	OCHIAI Sachiko	229
2022 Annual Report		235
Guide for Contributors		238

Teacher Education Center  
Kyoto Women's University